

## 平成26年度鹿児島同窓会「2014神戈陵のつどい」について

平成26年7月26日（土）午後6時から、鹿児島市のジェイドガーデンパレスにおいて鹿児島同窓会「2014神戈陵のつどい」が約50名程の会員を集めて行われました。本部同窓会からは大坪憲市同窓会会長（昭和41卒）、学校側からは、小屋敷浩昭校長先生、橋口浩二郎教頭先生、畦地事務長、中尾龍二（昭和52卒）・星原淳志本校同窓会係が出席しました。

今年度の幹事は昭和46年卒の方々。まず、総会の部では、担当幹事の松菌眞一氏の司会進行のもと、亡師・亡友への黙祷、幹事を代表して前川辺高校校長の宮園秀昭氏が「夏の風物詩で忘れてはならないのが同窓会。親交を深め、更なる母校愛に花を咲かせよう」と開会のあいさつをされました。次に、椎原鹿児島同窓会会長が「今年の幹事は20年後輩。短い時間ではあるが、楽しく過ごしていただければありがたい」とあいさつされました。祝辞として、大坪本部同窓会会長は、「会長就任以来いろいろなことをアピールしてきた。ムードは良くなってきている」と川辺高校への期待感が高まっていること、なぎなた部・水泳部の全国大会出場、吹奏学部全国高校総合文化祭への出場、野球部の活躍等の報告がありました。小屋敷校長先生からは、同窓会・地域に方々にお世話になっていること、伝統ある学校にはたくさんの記念樹があり生徒たちを見守っていること、学校の規模は小さくなっているが生徒たちは自分の存在意義の確認や進路目標を達成するために楽しく学校生活を送っていること、職員も生徒のためにどうすればよいかを考えながら日々邁進していること等、学校の概況説明がありました。

懇親会の部は、町園和子氏の司会のもと、山口久信氏の乾杯の音頭で始まりました。しばらくの歓談の後、余興で行われたのが大マジックショー。どんなに目を凝らしてもタネが分からないマジックに目を奪われた後、再び歓談の開始。あちこちの席から、お互いの近況報告や世代を超えての青春時代の思い出話に花が咲きました。校歌斉唱の後、新しく鹿児島同窓会副会長に就任した加治佐愷氏（昭和35年卒）の万歳三唱。高崎正人氏の閉会のことばで楽しい宴は終宴となりました。

最後に、貴重な時間を過ごさせて頂いたことに感謝し、ここに報告致します。



椎原鹿児島同窓会会長のあいさつ



鹿児島同窓会役員の方々